

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人独自の理念と、事業所独自の理念を作成している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフルーム、各ユニットのリビング3か所に掲示し、業務の始まりである朝の申し送りと、一日の業務の中でそれを実践できたか省みるよう、夕方の申し送りに唱和している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	リビング内の目につきやすい場所に理念を掲示し、家族や、訪問及び見学に訪れた来客にもわかるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩等の屋外での活動時、積極的に挨拶を行い、地域に溶け込めるようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会のサークル活動の発表会の場に招いて頂いたり、老人会や園児・小学生による訪問時に交流を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的な内容を検討中である。	○	菜園で作ったものを近所の高齢者宅に、おすそわけとして配り交流できないか、また、手作りのおやつ等を作り、お茶を飲み気軽に立ち寄っていただくのは、どうか、等話あっている。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフが参加する寮母会議において、外部評価がどういものか共通認識を図るため、資料を配布し確認をおこなった。	○	これまでの個々の利用者の生活歴の中に、今の生活に活かせるものがないか、どのように引き出せるか見直している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。これまでの取り組みや行事を写真や口頭で報告している。生活の活動性を高めて欲しい声があった。取り組めることがないか、話し合い、取り組めることから実践している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通じて、情報の交換・共有をおこなっている。また、入所相談、見学等あれば市町村と協働している。	○	地域福祉の推進役の最前線である市町村と、問題解決に向けた話し合いや対応に共に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料をスタッフルームに置き、知識が得られるようにしている。入所時には、家族・本人に事業・制度があることの説明を行い、玄関に資料を設置し、閲覧できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時にはプライバシーに配慮しながら全身観察を行い、日常のコミュニケーションや、行動から該当することがないか注意を払い、防止に努めている。	○	法への理解を図り、私たちが徹底して防止に努めなければならない。もし、虐待の危険性があれば、早期発見し、速やかに対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所の際、手続き契約等に十分説明をおこなっている。不安や疑問が生じていないか確認し、また、質問をしやすいよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。そればかりに頼らず、言う事をためらう利用者もいると考えられるので、「意見や要望をお寄せ下さい」と伝え、話しやすいコミュニケーションづくりに努めている。該当する事は、すぐにスタッフ間、管理者、上司と情報を共有し改善に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回苑たよりを発行。行事や取り組みを掲載し、日ごろ生活している様子を伝えている。金銭管理はノートに収支を記入し、お金の管理を行っている。能力に応じて金銭を所持している方もいる。		
15	と 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その都度対応し、スタッフ間でも日ごろ話し合っている。申し送りノートに書くなどして情報を共有している。	○	運営推進会議での意見を運営に取り入れていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、各部署において勉強会(寮母会議)が開かれている。意見交換を行い、上司に報告している。グループホームの勉強会に部長が出席し、意見や方針を共有している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じ、休憩をずらすなどしている。行事があるときはスタッフを増員したり、併設施設からの職員の協力がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	4月の人事異動とイレギュラーな異動がある。利用者には少なからず影響があるので、それが最小限になるよう、申し送りや日々の業務で利用者の状態を把握するよう努めている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたっては性別や年齢等は条件としていない。個々の能力が発揮できるよう、また、社会参加や自己実現へ向けて配慮・支援している。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全体朝礼での啓発や、全体勉強会、グループホーム勉強会で人権教育の勉強をしている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体勉強会で研修発表を行い、グループホーム内での勉強会が行われている。業務でわからないことは、他のスタッフに尋ね、勉強会で話あっている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	第2グループホームとの交流の機会があり、スタッフ間でもコミュニケーションが出来ている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	グループホームの勉強会にて、上司の出席がありそこで話す機会を設けている。スタッフ同士声をかけあい、コミュニケーションを盛んにとり、ストレスを溜めないようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	体調管理に気をつけるよう促し無遅刻、無欠席がないか把握に努めている。運営会議や業務会議に出席し把握をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の表情や言葉からも気持ちを汲み取るようにしコミュニケーションをよくとるよう努めている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が気軽に相談でき話しやすいような対応を心がけ、家族の声を聞き、不安になられないよう努めている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状態を把握し、GHへの入所が適切なのか、他に適したサービスがないか検討するようにしている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族から十分に聞き取りを行い、リロケーションダメージを考慮し、徐々に慣れていただくよう、入所前に見学に来てもらったり、入所されてからもお茶を飲むなどして本人と一緒にすごして頂く機会をとっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「お世話になっている」「お世話している」ではなく、共に過ごし、共に支えあう気持ちで接し、時には人生の先輩として人生訓を学び、時には家族として生活の中での共感を大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活の中で、一緒に笑い、一緒に涙を流すことあり、家族と共に支えあう関係を築いている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの生活歴、関わりを把握・理解し、今ある姿を捉えている。面会時や電話等で適宜情報交換を行い、より良い関係が築けるよう努めている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの地域との関わりや、なじみの関係の情報をなるべく沢山収集し、面会しやすい雰囲気を作ったり、訪問の協力を得ている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの関係を把握し、利用者同士で助け合う場面があれば、その状況や出来る力を活かし、共に生きていく仲間として支えあえるようにしている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院により退所になった利用者には、スタッフが時々見舞いに行き、施設入所による退所のケースには、利用者を伴い訪問したり、遊びに来て頂く等している。いづれのケースも引継ぎを十分に行い、本人や家族の声を聞いたり、経過を見守ったりしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりがその人らしく生きて行くことの実現に向けて、どのような暮らしを望んでいるのか関心を向けて把握に努めている。また、言語での表現が困難な場合は、それまでの日ごろの会話、表情等から汲み取るよう努め、意見を出し合い話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や地域資源との関わりの把握に努めている。個々のファイルを作成し、職員が何時でも閲覧できるようにしている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝、バイタルサインの確認と共に、表情や行動の変化がないか把握に努めている。勤務に入る前に、前日までの記録を把握し、勤務時間帯の様子を個人記録に記入している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族のニーズを大切に、チームケアとしての計画作成に努めている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月ごとに評価を行い、プランの見直しをしている。ニーズや状況に変化が生じたときは、関係者と話し合い計画作成の変更を行っている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を基に、本人の思いや担当職員の意見を取り入れ、情報を共有し、見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時には、他部署へ応援を依頼したり、看護師に適切なアドバイスを受ける等、協力を得ている。ホーム内での行事にとどまらず、併設事業所の行事に参加する等して、支援にあたっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回のボランティアの訪問により、四季折々の置物等、利用者と一緒に作ったり歌ったりしている。	○	地域との連携をとりながら、安心した生活ができるよう、近所の方や消防署との関わりを持っていきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ニーズや状況に応じて、福祉用具等、他の支援が必要と思われる場合は、本人・家族・事業者と話し合い、何らかの策を講じる為の支援を行っている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	4月に地域包括支援センターより、アンケートの記入依頼があった。	○	本人らしい暮らしの支援のため、地域包括支援センターと関わりをもっていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞き、受診支援を行っている。また、週1度の協力医療機関の回診と必要に応じて、往診や他の医療機関への紹介あり。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に受診し専門医との関わりが途絶えない様にし、アドバイスを受けられる体制にしている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設事業所の看護師に相談したり、アドバイスをもらう等して連携している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の家族や、入院先の病院と連絡をこまめにとり、利用者の状況を聞き、地域医療連携室・家族と共に方向性を話し合う。退院前にスタッフ間で情報を共有し話し合いをしている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の家族と十分に話し合いを行い、担当医、看護師、職員と蜜に連携をとり対応するようにしている。また、組織内の会議でも話し合いの方針を共有している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師・家族・職員間で話し合いを十分に行い、利用者が尊厳を持って心地よく暮らせるよう、出来る事をチームケアで取り組んでいる。	○	看取りのケアについて、更に知識を得たい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り先への情報提供を行い、リロケーションダメージが極力防げるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月の勉強会等で、言葉かけ、対応を話し合い、気付いた点をだし改善していくよう確認しあっている。記録等の個人情報は取り扱いに十分注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりの思いや希望、意思表示ができない方の思いや表情、全身の反応を把握し、その人らしい生活が出来るか再確認し支援に努めている。	○	意識の向上に努めていきたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思い、自己決定を尊重し、利用者個人個人のペースでその日を過ごされ、スタッフは利用者一人ひとりの要望を優先し支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	提携している美容師の2ヶ月に1回の散髪があり、利用者の方も楽しみができ喜ばれている。また、スタッフにおいても身だしなみのケアとして、髪染め、マニキュア、顔剃り、フェイスマッサージ等、支援を行っている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい食事を尋ねたり、季節の食材を取り入れ、見た目にも楽しい食事作りを心がけている。野菜の下準備や片付けを職員と一緒にやっている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは個々の好みのものを取り入れるようにしている。又、コーヒー牛乳、アップルティー等、希望を聞き提供する機会を設けている。午後のおやつ時、手作りのおやつを食べられる時は、思い出話に花が咲き、懐かしい表情で喜んでたべられているので、そのような時間も大切にしている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の排泄パターンを把握し、プライバシーに十分配慮し、気持ちよく排泄が出来るように心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調に合わせ、入浴を行う。体調の変化に対応しやすいよう昼間に入浴を行っている。日ごろ、拒否の強い方は、本人が気が向いたときに入って頂く。スタッフの声かけや入浴剤の使用等で、入浴が生活の楽しみの一つとなるよう努めている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠のリズムを把握し、中途覚醒を防ぐため遅くまで起こしておくようなことはしていない。日中でも疲れたときは自室で休息を取られている。夜間おだやかに過ごせるよう、おだやかな声かけや照明を落とすなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の出来る力を活かしながら得意とする事、絵描き、ぬり絵、書き取り、カラオケなどを行い、積極的にしていただき、気分転換や楽しみの支援をしている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の金銭を持つことで安心される方もいるので、所持を希望される方は、所持されている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望や天候、状況により出来るだけ対応できるよう努めている。ドライブでは、利用者の希望を取り入れ目的を決めている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	バスハイク等利用者の希望に沿って目的地を決めている。また、家族と共に外食やお寺へのお参り等、特別な場所やなつかしい場所への外出の協力を求め支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話を受け会話されたり、本人に絵手紙が届く等の状況があり、いずれもプライバシーに配慮しながら支援を行っている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関前には、プランターに花を植え、玄関内にも花を飾ったり心地よい雰囲気に心がけている。訪問者には明るく挨拶を行い、気軽に訪問しやすいよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	組織内で身体拘束廃止委員会を設置している。何が身体拘束なのか知識の習得に努め、メリット・デメリットを話し合っている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけず、利用者が出たい時出れるようにしている。安心と自由のある生活支援を行っている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者の行動や心理を把握するようにし、徘徊時には付き添いや見守りを状況によって行っている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類、包丁等は利用者の目の届かないところに保管している。個々の利用者の持ち物を把握し、どのように取り扱われているか把握し安全に配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒時の、利用者はもちろん、その場に居る職員も動揺するので、まず、職員が落ち着き迅速に対応する。一人ひとりの留意点を把握し、勉強会を行っている。ヒヤリ・ハット報告書を活用し、事故の再発防止に取り組んでいる。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会や救急救命講習に参加したり、看護師より応急手当を学んでいる。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	組織内で合同訓練が年2回あり参加している。運営推進委員会で、地域の方々に緊急時の応援協力を呼びかけている。	○	職員間でも昼夜想定したシュミレーション訓練をい行い、緊急時に備えたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会に来られた際、電話での報告を行う際、心身の様子・状況を家族に説明し、本人の尊厳を大切にしたい対応ができるよう話し合っている。また、スタッフ間でも情報を共有し話し合っている。		
区				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルサインの確認、食事摂取量、いつもと違う行動、仕草に気付いたら、情報を共有し、様子観察対応に結びつけている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で、目的・用法・容量・副作用を理解している。薬の仕分け、セッティング、服用時と各段階で確認をし、個々の能力に応じた服薬介助を行っている。状態の経過・変化を観察・記録している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排便の確認を行い、便秘になりにくい食材を取り入れている。便秘気味の方には、腹部マッサージを行っている。なるべく身体を動かしてもらうよう働きかけしており、毎朝のラジオ体操には積極的に参加されている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの能力に応じて、毎食後にうがいや磨き残しの介助を行っている。自尊心を傷つけないよう配慮し、歯科受診を拒否されている方に対しては、歯槽膿漏の悪化の防止のため、市販の歯磨きペーストに塩をつける等している。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立係りが旬の食材も使い、栄養バランスの取れた献立作りをしている。水分摂取が少なくなり勝ちな利用者には、好みの物で対応したり、食事摂取量が低下している時は、かかりつけ医とも相談し、好みも物や高カロリーの補助食品で代替するなどの支援をしている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを設置している。インフルエンザの予防接種を、希望された方は年1回受けている。トイレでの排泄後、屋外からの帰苑後、食事前にはうがい手洗いの励行を行っている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具はこまめにハイター消毒を行っている。まとめ買いはせず、担当職員が新鮮で安全な食材を購入し、冷蔵庫で保管。早めに使い切り、極力熱を通して提供するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を植え、入りやすい雰囲気になるようにしている。出入り口に手すりのついたスロープ、階段を設置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板に利用者の写真を貼り、空間整備を行っている。玄関に季節の花を飾り季節感を感じられるようにし、月1回、ボランティアの方が、季節に応じた制作物を利用者と一緒に作っていただき、それを居室に飾っている。テレビ前のソファは居心地が良いようで、利用者にとってくつろぎの場所となっている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキの椅子で話したり、花壇を眺めたり、また、テレビ周囲に設置したソファでは、語りあったり、テレビをしたり、休息をとれる場になっている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた場所からの継続の生活の場として過ごして頂けるよう、家族に協力をお願いし、なじみのある置き時計や、眼鏡等お持ち頂いている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめにやっている	ひどい雨以外は、朝、リビングや玄関の窓を開け換気を行っている。居室の窓は利用者の離床後に開けるようにしている。リビング内にある温度計・湿度計をチェックし、エアコン・サーキュレーター・衣類で利用者の状況に応じてこまめに調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮し壁面、浴室、トイレに手すりを設置。トイレは片麻痺でも利用しやすい作りになっている。障害のレベルに応じて、全ての障害をハード面でカバーするのではなく、スタッフの対応等ソフト面での対応も大切にしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入口に表札を付けたり、トイレの場所を表示している。ゆっくり落ち着いた口調で声かけを行い、混乱を招かないよう対応している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園庭に花壇があり、季節感を味わえるようにしている。ウッドデッキで日光浴や茶話会をし、玄関先のポーチで夕涼み会を開いた。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	①ほぼ全ての利用者の
		☐	②利用者の2/3くらいの
		☐	③利用者の1/3くらいの
		☐	④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	①毎日ある
		☐	②数日に1回程度ある
		☐	③たまにある
		☐	④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐	①ほぼ全ての家族と
		☐	②家族の2/3くらいと
		☐	③家族の1/3くらいと
		☐	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

[特に力を入れている点・アピールしたい点]

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・基本理念にもある「言葉のケア」「温かいまなざし」で利用者に接し、一人ひとりの利用者が、何ができるか、から、したいことは何か。どのような思いでいるにか、常に観察しコミュニケーションをとるようにしている。
- ・排尿。排便チェックをプライバシーに配慮しながら行い、自然排便ができるよう、水分摂取がしやすいようにしたり繊維質の食べ物を多く取り入れ等工夫している。